

現代における風景に関する百選の展開と選定地の変遷

Deployment of "Hyaku-sen" and change of selected landscapes

伊藤 いずみ*

Izumi ITO

Abstract: "Nihon Sankei" and "Omi Hakkei", are specially chosen landscapes that are known worldwide. In recent years, sets of one hundred landscapes "Hyaku-Sen" have been selected for various purposes. It is very likely that each set reflects people's thoughts on landscapes of the time it was selected. The aim of this paper is to reveal how the concept behind the selection of "Hyaku-Sen" gradually changed based on the collected information regarding each "Hyaku-Sen (the concept behind it, the details of the actual selection process)" and how the way people looked at landscapes changed over time by comparing the sets of one hundred locations chosen for tourism promotion purposes. Around 50 sets of "Hyaku-Sen" were officially selected between 1950 and 2010. At the beginning, the purpose of selecting "Hyaku-Sen" was tourism promotion. However, the purpose diversified gradually, and sets of one hundred landscapes were selected eventually for environmental protection, historic/cultural preservation, and so on. It has been found out by comparing the selected locations that the landscape to be selected changed from the initial purely natural landscapes to 'mostly natural' landscapes, townscapes, and buildings including leisure facilities, covering a wide range of landscapes.

Keywords: *Hyaku-sen, Tourist Sites, landscape viewpoint*

キーワード：百選、観光地、風景観

1. はじめに

現代の風景に関連する「百選」の主旨や選定方法、及び選定地を分析し、風景に対する捉え方の変遷を考察する。

「同類のものをいくつかまとめ、上にある数をつけて、特定の内容をさす言い方」(日本国語大辞典)である名数を冠して名所を示すことは、日本三景、近江八景、諸国名所百景など広く知られてきた。「百景」は、「多くの景色。種々の変化に富んだ景色。また、すぐれているとして選ばれた百の風景」(同)であるが、近年では、「すぐれた物・事柄・場所などを百選ぶこと。また、その選ばれたもの」(同)として、百景も含み、〇〇百選(以下「百選」というものが多数存在し、様々な対象を選定している。

近江八景などの景の表現は以降の自然科学的なものとは異なり、イメージや意味が先行したものが多く、「風景論が出てから、従来の近江八景式や、日本三景式の如き、古典的風景美は、殆ど一蹴された観がある」¹⁾という批判もあった。しかし、これらは「『歌枕』以前の風景観と、近代の風景観とを架橋する位置にあり」「ある土地に関わる様々な興味の錯綜から風景主題を描き出してみせた」²⁾とも言われている。

現代の風景に関する百選においても、伝統的な名数景のようにイメージ・意味づけを行いながら、風景への関心を高めていく役割をもつことが考えられる。

一方、そこで選ばれる場所は名所であり、観光地であった。近世の、〇〇百景は観光ガイドの役割をはたし、一般の投票という方法をつかった1927年日本八景を選ぶ(併せて二十五勝、百景を選んだ)という百選の主たる目的は、観光による地域振興であった。「名所も観光地も共に非日常的な風景を捉えるまなざし(歴史的社会的に文化として構造化された見方)で見出された場所である」³⁾とすると、百選の選定地は公募や専門家の審議によって選定された一つの風景の表象で、風景の見方の一端があると考えられる。また、それぞれの百選では選定方法の違いなどにより、その時期での位置づけが異なり同一条件の比較とはならないが、

選定地の変遷に風景の見方の変化があらわれることも考えられる。

これらのことから、本論では、まず、現代の百選について、主旨、対象とする風景などから、その役割と変遷を明らかにする。また、いくつかの百選において選定された風景地について、その風景の種別や、変遷を通して、百選の中にあらわれる風景の見方の一面を考察する。

既往研究として、百選に関するものは、西田⁴⁾が中世から近世、近代、現代を通観して観光地(風景地)の変遷について論じ、「自然景観から人文景観へ、そして再び自然景観へ振れ、以降は双方に振れている」としている。但し、百選は1990年代までのものを対象としており、その対象地は瀬戸内海の観光地である。

大宮⁵⁾は、近代の名所百景の分析から「景」の変遷の特徴は、「個人化」と「場所化(観念景→客体景→場所景)」としている。1927年の日本八景(日本百景)の選定に関しては白幡⁶⁾、新田⁷⁾が詳述している。これらは、戦後の百選については扱っていない。

本論は、現代(戦後~2010年)の百選を概観するものであり、また、現代の百選の中で日本全国を対象とした風景地の選定を通して、風景の見方を考察するものである。

2. 現代の百選

(1) 方法

文献⁸⁾⁹⁾の参照、ホームページの検索により、戦後(1945年以降)に発表された、〇〇百選、〇〇百景など、名数がつけられたものを抽出する。その中から、日本全国を対象として、風景に関する選定を行う百選を一次収集する¹⁰⁾

風景に関するものとは、名称に「百景」、「自然」という語句があるものと、環境や文化遺産など風景の構成物と考えられる対象を扱うものである。そのなかで、主催・後援に官公庁が関与する、あるいは、民間の主催であるが選定のプロセスで公募を行っている百選を調査対象とする。個人や団体のみで選定したものは除外する。

*東京大学大学院農学生命科学研究科

表—1 百選一覧

NO	名称	年	主催/主な後援、協力など	選定方法	主旨・目的	風景種別
1	新日本観光地100選	1950	毎日新聞 後援:GHQ、内閣府等	区分を提示して公募	新観光ルート設定のため観光地の選定	総合
2	新日本百景	1957	週刊読売 後援:厚生省、運輸省等	公募	読者の現代感覚による新しい自然風景の選定	総合
3	新日本旅行地100選	1966	雑誌『旅』	候補地を提示して公募	一般読者の新しい感覚の旅行地の選定	総合
4	21世紀に残したい日本の自然100選	1983	朝日新聞社・森林文化協会	候補公募→委員会	先祖伝来の貴重な自然の保護	自然
5	名水100選	1985	環境省	候補推薦→委員会	水環境の保護	自然
6	近代水道百選	1985	日本水道新聞社 企画:厚生省	候補推薦→委員会	水道の文化財の選定による水道への親近感の醸成	文化
7	日本の道100選	1986	建設省・「道の日」実行委員会	候補推薦→委員会	道路の啓蒙と愛護	建造物
8	森林浴の森100選	1986	緑の文明学会等 協力:林野庁等	候補推薦→公募→委員会	日本の森林を「森林浴」(健康、保養)に活用	自然
9	にっぽんの温泉100選	1987	観光経済新聞社	公募	人気温泉地の選定	文化
10	新日本観光地100選	1987	読売新聞 日本テレビ	公募	価値観が多様化した現代人になさわしい観光地を選定	総合
11	日本の白砂青松100選	1987	日本の松の緑を守る会 後援:林野庁	候補推薦→委員会	白砂青松の松林の保全	自然
12	ふるさといきもの里100選	1989	環境省	候補推薦→委員会	小動物・生息環境の保全を図る地域住民の努力を顕彰	自然
13	日本の秘境100選	1989	雑誌『旅』	候補推薦→公募→委員会	「知られざる名所」の選定	総合
14	日本の都市公園100選	1989	日本公園緑地協会等 後援:建設省	候補公募→委員会	公園愛護の精神の醸成、整備の推進	文化
15	新日本名木100選	1990	読売新聞社・花博協会 後援:通産省等	候補公募→地方選定→委員会	民話、地域と共生する巨樹・老木の保護	自然
16	さらの名所100選	1990	日本さくら会 後援:運輸省、環境庁等	候補推薦→委員会	特色ある優れた桜名所の選定	自然
17	日本の米づくり100選	1990	全国農協中央会・日本農業新聞	委員会	米作りの実像(伝統文化の継承、国土保全の役割)の周知	文化
18	日本の滝100選	1991	緑の文明学会等 後援:環境庁	候補推薦→委員会	滝を通じての、自然との共生や環境保全	自然
19	農村景観百選	1991	農水省 全農 他	候補推薦→委員会	農村景観を通じた農村の活性化	文化
20	都市景観100選	1991	国交省・都市景観大賞審査委員会	都市景観大賞の集大成	良好な都市景観の醸成	文化
21	新・日本街路樹100景	1994	読売新聞 後援:建設省、自治省他	候補公募→委員会	街路樹の保全	文化
22	水源の森百選	1995	林野庁	委員会	水を伴った森林と人との関係がつけられている森の選定	自然
23	残したい日本の音風景百選	1996	環境省	候補公募→委員会	音環境の保全	自然
24	水の郷百選	1996	国土庁	候補推薦→委員会	水の歴史文化・水環境の保全、水を活かした町づくり	自然
25	日本歴史の道100選	1996	文化庁	候補推薦→委員会	「歴史の道」及び地域の文化財の周知	文化
26	日本の渚百選	1996	日本の渚100選中央委員会 後援:農水省	候補推薦→委員会	海や浜の重要性の啓蒙、保全	自然
27	あなたが選ぶ「日本の灯台50選」	1998	海上保安庁	公募	第50回灯台記念日の行事。印象に残る灯台の選定	建造物
28	公共建築100選	1998	建設省	候補公募→地方選定→委員会	公共建築の意義や重要性の周知	建造物
29	日本の棚田百選	1999	農水省	候補推薦→委員会	棚田の保全推進	文化
30	甕の水100選	2000	建設省	委員会	下水道整備の必要性の周知	建造物
31	森の巨人たち百選	2000	林野庁	候補推薦→委員会	次世代への財産として残すべき「国民の森林」の保護推進	自然
32	かおり風景100選	2001	環境省	候補推薦→公募→委員会	よい香りの再発見、不快な臭いの改善活動を促進	自然
33	散歩百選	2002	読売新聞 後援:総務省、環境省等	候補推薦→公募→委員会	「一生に一度は訪ねてみたい100か所」の選定	総合
34	美しい日本の歩きたくなる道500選	2004	日本ウォーキング協会 後援:国交省等	候補公募→実地調査→選定	地域振興につながるウォーカーに評判の道の選定	文化
35	日本の夜景100選	2004	夜景倶楽部	候補提示→公募→選定	夜景による経済効果 夜景環境の保護と整備	文化
36	人と自然が織りなす日本の風景百選	2005	名鉄グループ等	候補公募→委員会	自然と人が共生する風景を選定	文化
37	わたしの旅100選	2005	文化庁	候補公募→委員会	「旅」を通じて日本の歴史と文化をたずねるプランの選定	総合
38	ダム湖100選	2005	ダム水源環境整備センター	候補推薦→委員会	地域の活性化に役立つダム湖の認定	建造物
39	快水浴場百選	2006	環境省	候補推薦→委員会	個性ある水辺の評価、快適な水浴場の普及	自然
40	未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産100選	2006	水産庁	候補推薦→公募→委員会	都市と漁村の交流促進、水産業や漁村に対する関心の醸成	文化
41	ヘリテージング100選	2006	毎日新聞社 後援:国交省、文化庁等	候補公募→委員会	観光対象としての「近代遺産(ヘリテージ)」を選定	歴史
42	日本100名城	2006	日本城郭協会 後援:文化庁	候補公募→委員会	歴史的シンボルである城郭を総合的な学習の場として活用	歴史
43	日本の歴史公園100選	2006	日本公園緑地協会等	候補推薦→委員会	歴史的、文化的資源を継承する公園の整備による地域づくり	歴史
44	疏水百選	2006	農林水産省	候補公募→委員会	用水による「水・土・里」(みどり)を維持	文化
45	日本の地質百選	2007	地質情報整備・活用機構等	候補公募→委員会	地質現象のユニークさの顕彰、周知	自然
46	美しい日本の歴史的風土100選	2007	古都保存財団	候補推薦→公募→委員会	美しい日本の歴史的風土の魅力国内外に周知	歴史
47	平成の名水百選	2008	環境省	候補推薦→委員会	水環境保全の一層の推進	自然
48	にほんの里100選	2008	朝日新聞社・森林文化協会 後援:農水省	候補公募→現地調査→委員会	人の営みが育んだすこやかで美しい里の選定	文化
49	平成百景	2009	読売新聞 後援:国交省等	候補提示→公募→委員会	平成の新しい日本の景観を選定	総合
50	島の宝100景	2009	国交省	候補公募→委員会	島々の自然や歴史・文化、暮らしなどを反映する景観の周知	文化
51	ため池百選	2010	農水省	候補推薦→公募→委員会	ため池の歴史や役割、保全の必要性の周知	文化

対象とした百選について、主催者(それに準ずる関係者)のホームページ、ハンドブック、新聞記事、雑誌記事から、主催者・後援者、主旨・目的、選定経緯を調査する。加えて、対象とする風景により分類をおこなう。分類種別は、総合(特に景を区別しない)一総合、自然景一自然とし、人工的景観を、文化的景観一文化、伝統遺産一歴史、建築・土木建造物一建造物とする。尚、人手の介する二次的自然であっても森林などの保護の主旨の場合等は「自然」に分類する。

調査結果に基づき、主催者、主旨の傾向の変化、選定プロセスなどを明らかにし、選定された年代と併せてその特徴を考察する。

(2) 百選の状況

一次収集した選のうち、官公庁が関与あるいは、選定プロセスに公募有の条件を満たすものは表1のとおりである。「日本百名山」(1964年深田久弥)などの個人の著書、「日本100景」(1980年家庭画報)など公募を伴わない出版社選定のものは、知名度に関わらず対象外とした。

表1では、名称、選定年、主催者等、選定方法、主旨・目的、風景種別を示している。複数年、複数回にわたって選定を行ったものがあるが、選定年は初回の選定結果が発表された年である。選定方法で、「公募」とある場合は、広く一般に募集をかけた場合で、「推薦」とある場合は、自治体や関係団体によるものである。今回対象となった、百選は51個であり、1950年から2010年ま

でに選定されたものである。1980年以前は3つであったが、1985年以降、24年間で48個と増加している。主催者別では、国交省(前運輸省、建設省、公園協会など)関連が9件、環境省(前環境庁)6件、農水省(林野庁、前農林省)7件、他省庁4件、新聞・雑誌14件、他団体11件である。

選定方法としては、候補を自治体や一般につのり、委員会で決定するというプロセスが42件と全体の80%である。官庁主催では大半が委員会で最終決定を行っている。新聞社、雑誌社では公募が主となるが、投票数のみで選定をしたものは5件である。尚、都市景観百選は都市景観大賞入賞地を10年(1991年~2000年)集めて百選にしたという他とは異なるプロセスをとっている。

百選の対象とする風景を年代ごとに集計した結果を表2に示す。単位は件数である。当初は、百景の伝統的な役割をふまえた、観光振興を意識した総合的なものだったが、1980年代には、自然景7件、文化景4件となり、2000年代は、歴史景4件が出現している。

1980年代以降は、社会の経済状況の変化に関わらず一定数の百選が選定されている。官公庁主催の百選が景観に関する諸施策の一環として、周知・啓蒙を意図して実施されたと考えられる。三景や八景の伝統を継承する総合的な景の選定は民間(主に新聞社主催)で、一定期間毎に実施されている。

表—2 風景種別集計

	1950～	1981～	1991～	2001～	小計
総合	3	2	0	3	8
自然		7	5	4	16
文化		4	6	8	18
歴史		0	0	4	4
建造物		1	3	1	5
小計	3	14	14	20	51

3. 選定地の変遷

(1) 研究方法

前項の百選の中で、風景種別が“総合”で、観光振興、地域振興を意図とした百選の選定地について調査する。

まず、対象とする百選の詳細を、文献、新聞記事、雑誌記事から、選定の経緯、選定地の傾向などの特徴を明らかにする。

次に、各々の選定地を風景により分類を行う。分類区分は、自然(山岳、渓谷など)、文化・歴史(温泉、寺社など)、近現代の都市・建造物(ダムなど)、その他(レジャー施設など)の4つである。さらに自然景については、1927年日本百景で用いられた区分を参考に(海岸、山岳、河川、渓谷、瀑布、平原、湖沼)で分類する。尚、日本百景の区分ではこれらに加え“温泉”があるが、

選定地としての温泉は街並みなど総合した景と考えられ、本論では“文化・歴史”景としている。

また、それぞれの選定地が、他の百選で選ばれたか否かを調査し、出現パターンを分析する。百選によって、選定地の名称が完全一致していない場合、エリアの大小関係で包含(華厳の滝と日光など)される場合は同一として扱う。但し、ほぼ同一地域でも、選定内容が変化(自然景から都市景など)している場合等、風景地としての意味が違う場合は、別のものとする。

選定地の風景地の変遷を、風景地の種類や、同時代の風景・景観・観光に関する出来事などをとおして分析し、風景に対する見方を考察する。

(2) 比較対象の百選の詳細

観光・地域振興を目的に日本全体で総合的に風景を選定した百選で、選定年が16年～20年離れた、新日本観光地百選(1950年毎日新聞主催:以降<1950>)、新日本旅行地100選(1966年雑誌「旅」主催:以降<1966>)、新日本観光地100選(1987年読売新聞主催:以降<1987>)、平成百景(2009年読売新聞主催:以降<2009>)の百選を比較した。また、日本百景(1927年大阪毎日新聞・東京日日新聞主催:以降<1927>)も併せて比較した。尚、他の総合的な風景を選定した百選と比し、選定年(20年前後間隔がある)や、選定条件(選定の制限が少ない)などからこれらを選んだ¹¹⁾

表—3 選定地一覧

日本百景(1927年)
大沼、狩勝峠、層雲峡、登別温泉、洞爺湖、十和田湖、花巻温泉、高田松原、猊鼻溪、気仙沼湾、青根温泉、石巻海岸、男鹿半島、田沢湖、鳥海山、松川浦、新舞子、猪苗代湖、東山温泉、霊山、袋田瀧、霞ヶ浦、筑波山、鹽原温泉、華厳瀧、中禅寺湖、菅沼、赤城山、尾瀬沼、妙義山、長瀬、鏡ヶ浦、清澄山、利根川、奥多摩渓谷、高尾山、箱根温泉、江の島、阿賀川、加茂湖、笹川流、黒部峡谷、立山、九十九湾、山中温泉、片山津温泉、和倉温泉、芦原温泉、若狭高濱、富士五湖、駒ヶ岳、御嶽、昇仙峡、八ヶ岳平原、姥捨、奥裾花渓谷、上高地、渓谷、天龍峡、白馬岳、木曾御嶽、木曾田立滝、恵那峡、長良川、養老瀧、富士白糸滝、伊東温泉、一碧湖、沼津湾、日本平、熱海温泉、富士駿州裾野、富士川、蒲郡海岸、木曾川、赤目四十八滝、御浜鬼ヶ城、朝熊山、鳥羽湾、琵琶湖、宇治川、保津川、箕面滝、赤穂御崎、雪彦山、淡路先山、兎野原、信貴山、大台ヶ原山、大和平原、古座川、瀨八丁、那智瀧、三朝温泉、浦富海岸、大山、江川、宍道湖、下津井海岸、神庭滝、千光寺山、三段峡、忠海岸、帝釈峡、鞆の浦、秋吉台、室積湾、青海島、長門峡、王余魚の滝、祖谷溪、大歩危、小歩危、鳴門、屋島、寒霞溪、石槌山、面河溪、室戸岬、英彦山、唐津松浦瀧、嬉野温泉、川上川、九十九島、温泉岳、球磨川、阿蘇山、久住高原、耶馬溪、魚住滝、日田盆地、飯田高原、別府温泉、神都高千穂峡、霧島山、錦江湾
新日本観光地百選(1950年)
阿寒三湖、大沼、函館、富良野芦別平原、札幌、十和田湖、三陸フィヨルド、八幡平、秋保大滝、蔵王山、奈曾の白滝、出羽三山神社、飯坂、袋田滝、鬼怒川川治龍王峡、塩原、那須高原、日光、浅間高原、伊香保、高崎白衣観音、菅沼・丸沼、黒山三滝、秩父、村山山口貯水池、両神山、日本水郷、江戸川ライン、高幡不動尊、鎌倉、相模湖、中津川渓谷、箱根、遊行寺、阿賀野川ライン、柏崎福浦八景、妙高高原、黒部峡、庄川峡、芦原、富士五湖、昇仙峡、霧ヶ峰高原、乗鞍岳、恵那峡、長良川、養老滝、浄蓮滝、白糸滝、水ヶ下、浜名湖、達磨山、日本平、熱海、日本ライン、鳳来寺山、赤目四十八滝、伊勢神宮、鈴鹿湯の山、彦根城、琵琶湖、宇治川、箕面滝、姫路城、白浜、和歌浦友ヶ島、静峡、三朝、伯耆大山、三瓶山、宍道湖、鷺羽山、尾道、耕三寺、野呂山高原、秋吉台、錦帯橋、湯田、高松、丸亀塩飽諸島、渭南海岸、小倉平尾台、筑後川、博多、英彦山、日向神、唐津松浦瀧、九十九島、長崎、球磨川、熊本城、耶馬溪、日田盆地、別府、関の尾滝、高千穂峡、日南海岸、霧島山、川内川、桜島
新日本旅行地100選(1966年)
阿寒湖、襟裳岬、札幌、層雲峡、大雪山、知床半島、登別温泉、洞爺湖、美幌町、摩周湖、十和田湖、奥入瀬渓谷、恐山、八幡平、浄土ヶ浜、平泉、松島、蔵王山、田沢湖、五色沼、戦場ヶ原、中禅寺湖、日光、谷川岳、尾瀬、九十九里浜、犬吠埼、箱根温泉郷、箱根連山、城ヶ島、黒部峡谷、黒四ダム、三方五湖、東尋坊、昇仙峡、軽井沢、志賀高原、上高地、八方尾根、美ヶ原、野尻湖、蓼科高原、飛騨高山、白糸ノ滝、佐久間ダム、三保ノ松原、修善寺温泉、寸又峡、石廊崎、天城高原、日本平、熱海温泉、富士山、伊良湖岬、二見ヶ浦、美虞湾、鬼ヶ城、比叡山、琵琶湖、嵯峨野、天橋立、六甲山、淡路島、大台ヶ原山、白浜温泉、大島、潮ノ岬、静峡、那智ノ滝、勝浦温泉、大山、鳥取砂丘、隠岐島、宍道湖、出雲大社、松江、鷺羽山、倉敷、蒜山高原、宮島、秋吉台、秋芳洞、青海島、鳴門、屋島、栗林公園、小豆島、道後温泉、室戸岬、足摺岬、長崎、雲仙温泉、阿蘇、えびの高原、青島、都井岬、奄美大島、佐多岬、桜島、指宿温泉
新日本観光地百選(1987年)
阿寒、大沼、函館、釧路、江差・松前、室蘭・地球岬、十和田湖・八甲田、下北半島、古牧温泉祭魚道公園、八戸、八幡平、花巻温泉郷、松島、宮城蔵王、男鹿半島、田沢湖、最上川、上山温泉、鳥海山、いわき、奥久慈、常陸太田、水戸、大洗、日光、草津・白根、秩父、長瀬、銚子・犬吠埼、伊豆大島、鎌倉、箱根、横浜、湘南海岸、佐渡、黒部峡谷、五箇山、氷見、立山、金沢、能登半島、和倉温泉、武生、富士五湖、乾徳山・西沢渓谷、御岳・昇仙峡、清里・八ヶ岳、石和温泉、南アルプス、安曇野、軽井沢、松本、上高地・北アルプス、諏訪温泉、美ヶ原高原、奥飛騨温泉郷、飛騨高山、白川郷、伊東温泉、御前崎、三保の松原、寸又峡、日本平、熱海温泉、富士山、犬山・明治村・日本ライン、伊勢・二見、京都、生駒山、姫路、神戸、奈良、白浜温泉、串本、中辺路、那智・勝浦、鳥取砂丘、津和野、倉敷、尾道、宮島、広島、岩国、日和佐、高松・屋島、小豆島、瀬戸大橋、松山・道後温泉、足摺岬、長崎、雲仙、長崎オランダ村、島原、阿蘇、くじゅう、国東半島、湯布院温泉、別府、高千穂峡、日南海岸
平成百景(2009年)
函館の夜景、旭山動物園、釧路湿原、知床、美瑛、流水、十和田湖・奥入瀬川、弘前城、ねぶた、平泉、松島、蔵王、角館、白神山、山寺、会津若松、大内宿、霞ヶ浦の帆引き船、日光の社寺・杉並木、草津温泉、尾瀬、秩父夜祭、川越、長瀬、鉄道博物館、佐原、東京ディズニーリゾート、丸の内、柴又帝釈天・矢切の渡し、秋葉原、浅草寺雷門、東京タワー、日本橋、鎌倉、箱根・芦ノ湖、横浜みなとみらい21、京浜工業地帯、山古志の棚田、黒部ダム、金沢、永平寺、東尋坊、昇仙峡、甲府盆地の夜景、妻籠・馬籠、松本城、上高地、北アルプス、高山、合掌造り、大井川鉄道、富士山、犬山城と日本ライン、名古屋城、伊勢神宮、延暦寺、琵琶湖、祇園、京都の寺社、天橋立、伊根の舟屋、大阪城、中之島、通天閣、姫路城、神戸ルミナリエ、吉野山、奈良の寺社、法隆寺、熊野古道、高野山、白崎海岸、鳥取砂丘、宍道湖、出雲大社、倉敷、宮島、原爆ドーム、秋吉台、錦帯橋、鳴門の渦潮、金刀比羅宮、四国霊場八十八か所、直島、道後温泉、四万十川、太宰府天満宮、吉野ヶ里遺跡、平和公園、雲仙岳、阿蘇山、熊本城、由布院、別府八湯、高千穂峡、桜島、曾木の滝、縄文杉、サンゴ礁、竹富島

以下、比較する百選の詳細を記す。

1) 日本百景 (1927年)

東京日日新聞社、大阪毎日新聞社主催で、後援は鉄道省である。日本八景の選定と併せて、日本二十五勝、日本百景が選定された。ハガキによる一般投票の結果を受け、専門家からなる委員会で選定された。1927年4月9日に受付を開始し、同年5月20日の締切までで、総投票数は約9800万枚、当時の人口を超えていた。「地域をあげて投票活動が行われるなど熱狂的なイベントであった」¹²⁾といわれる。海岸、湖沼、山岳、河川、渓谷、瀑布、温泉、平原の区分を設け、区分毎に1位を選び、八景とした。投票数と選定結果は一致しておらず、専門家の間でも白熱した議論の末、決まるとされる。

2) 新日本観光地百選 (1950年)

毎日新聞社主催で、後援がGHQ、内閣各省、国鉄である。1950年7月30日に公告された。前回と同じく風景地の区分毎に順位をつけたもので、区分に、建造物、都邑が加わった。観光ルートも策定するので「交通機関の終着点から徒歩一時間以内」の制限があった、投票総数は前回より少ない77500854票であるが、観光振興を全面に押し出しており「組織的な投票に取り組む地元」¹³⁾があったようで、1950年10月11日の結果を報ずる記事の中で「富士五湖の投票は9日夜30258票が到着したがその取扱いは別に選定会議で調査することになった」¹⁴⁾と記されている。尚、この百選では、区分わけはあったが得票数に従って選定が行われた。全体の1位は2330676票で蔵王山であった。

3) 新日本旅行地100選 (1966年)

日本交通公社出版(当時)の雑誌「旅」主催で、1966年「旅」上で、北海道、東北、関東等・越後、東海・伊豆、信州・飛騨・甲州、関西・北陸、南紀・熊野・志摩、中国、四国・瀬戸内海、九州の10ブロックのうち、毎月1つずつ候補地を示し、ハガキの投票を受け付けた。委員会による裁量も行わず、予め風景をジャンルにわけて募集することもしなかった。「読者のあこがれている土地、行ってみたい土地を選ぶ」¹⁵⁾としている。総応募数は、各地区の投票結果から約70万票と推定される¹⁶⁾全体の1位は38665票の摩周湖で、2位が知床半島であった。

4) 新日本観光地百選 (1987年)

読売新聞社主催で、国鉄民営化に伴う新生鉄道誕生記念として1987年1月22日に募集が開始された。投票の得票順に100ヶ所を選び百選としている。選定地に関して、区分を設けたり、制限をつけたりせず、また、候補地の提示もなく、応募者の意思を尊重した形となっていた。同年3月10日の締切までに、1846308通のはがきの応募があり、3カ所連記のため有効投票5038310票であった。最高得票は富士五湖で34万票を超えた。特徴的な個所としてレジャー施設である、長崎オランダ村が選出された¹⁷⁾全体的に「大都市圏が集まる列島中央部に人気観光地が多い」¹⁸⁾結果となった。

5) 平成百景 (2009年)

読売新聞社が創刊135周年記念事業として、2009年1月4日に告知した。全国300箇所が候補地として示され、ハガキとインターネットによる投票をふまえ選定委員会により選定された。候補には、<新>平成になって新しく生まれた景観、<永>平成になっても変わらない景観、<直>平成になって見直された景観、などのマークがつけられていた。同年3月1日の締切までに、投票総数は64万票強であり、読者投票1位は「富士山」であった。旭山動物園、神戸ルミナリエなど、従来の百選では対象にならなかったと考えられる場所も選ばれた。¹⁹⁾

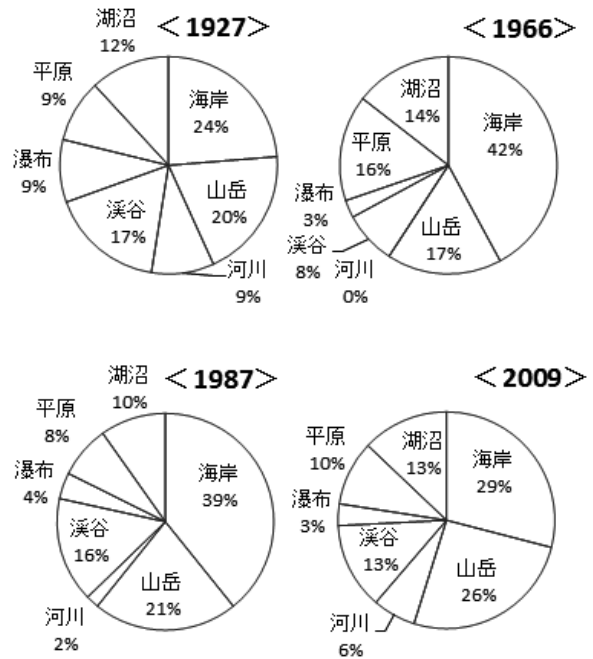
以上のように、最終決定が公募結果のみでなく委員会の選定であったり、選定候補を提示するなど選定地の条件をつけていたり、その選定方法は同一ではないが、全国を対象に公募による意見を

表—4 選定地の景の種別

	1927	1950	1966	1987	2009
自然	118	70	76	51	31
文化・歴史	15	23	16	27	42
都市・現代的建造物		7	8	21	18
他				1	9

(注) 単位は件数。

1927年は、日本八景、二十五勝、百景と計133カ所選定された。



図—1 自然景の内訳

取り入れ幅広く選定しようとしていた。但し、その公募投票数は、<1927><1966>では、数千万票であったが、年を経るにつれ減少し、<2009>ではインターネットまで利用したにもかかわらず、数十万票と100倍以上の差がある。地域をあげて熱狂し組織票を投じた時代との違いが表れている。

(3) 選定地の詳細

表3に各百選の選定地の一覧を挙げる。また、各百選の選定地について、風景を、自然、文化・歴史、現代的都市・建造物、その他に分類した結果を表4に示す

全体に対する自然景の割合は、<1927>89%から<2009>31%と減少し、文化・歴史的景は<1927>11%、から<2009>42%に増加した。現代都市・建築景は<1950>に出現し、<2009>には18%となった。

自然景のみの区分別の割合を図1に示す。<1950>は区分ごとに10個ずつ選定し、全区分が同じ割合のため図からは除外した。総じて海岸、山岳の割合が多く<1966>以降は併せて約60%である。一方、瀑布は<1927>で9%が、以降は3~4%と減少している。また、河川についても、<1927>9%から0~2%に減少している(<2009>で6%と割合は増加したが、件数は2件である)

風景地が各百選に選定されているか否かを1(選定されている)/0(選定されていない)で表しパターン別に代表例を示したものが表5である。

それぞれの百選で初めて出現する選定地の数は、<1950>

表—5 選定地の出現パターン

1	2	3	4	5	該当数	主な選定地
1	1	1	1	1	4	十和田湖 日光 箱根 昇仙峡
0	1	0	0	0	44	秋保大滝 出羽三山 伊香保 高崎観音 高幡不動
0	1	0	0	1	4	日本水郷 伊勢神宮 錦帯橋 熊本城
0	1	0	1	0	1	日南海岸
0	1	0	1	1	5	函館 秩父 鎌倉 日本ライン 姫路城
0	1	1	0	0	2	札幌 鷺羽山
0	1	1	0	1	なし	
0	1	1	1	0	2	八幡平 白浜
0	1	1	1	1	2	蔵王 長崎
0	0	1	0	0	35	摩周湖 五色沼 九十九里浜 三方五湖 石廊崎
0	0	1	0	1	7	知床 平泉 東尋坊 黒四ダム 天橋立
0	0	1	1	0	7	犬吠埼 軽井沢 美ヶ原 三保ノ松原 寸又峡
0	0	1	1	1	8	松島 富士山 高山 神戸 宮島
0	0	0	1	0	35	地球岬 安曇野 津和野 瀬戸大橋 長崎オランダ村
0	0	0	1	1	10	釧路 原爆ドーム 横浜 金沢 湯布院温泉
0	0	0	0	1	46	旭山動物園 美瑛 東京ディズニーリゾート
						京浜工業地帯 山古志の棚田 熊野古道 直島
						神戸ルミナリエ 四国八十八カ所
						丸の内 大内宿 甲府盆地の夜景
1	0	0	0	0	68	狩勝峠 木曾川 鞆の浦 白馬岳 木曾御嶽
1	1	0	0	0	19	袋田滝 菅沼 芦原 養老滝 恵那峡
1	1	1	0	0	1	白糸滝 瀨峡 大山
1	1	1	1	0	4	黒部峡谷 日本平 熱海 高松
1	0	1	1	1	3	上高地 富士山 雲仙 阿蘇
1	0	1	1	0	3	田沢湖 那智・勝浦 小豆島
1	0	1	0	1	2	尾瀬 鳴門
1	0	1	0	0	6	層雲峡 登別温泉 洞爺湖 大台ヶ原 青海島
1	0	0	1	1	1	長瀨
1	0	0	1	0	9	清里・八ヶ岳 鳥海山 江の島 立山 男鹿半島
1	0	0	0	1	1	霞ヶ浦
1	1	0	1	1	2	別府 高千穂峡
1	1	0	1	0	3	大沼 富士五湖 尾道
1	1	0	0	1	なし	
1	1	1	0	1	4	琵琶湖 宍道湖 秋吉台 錦江湾

1:1927年 2:1950年 3:1966年 4:1987年 5:2009年

60カ所、<1966>57カ所、<1987>45カ所、<2009>46カ所である。全体の45%~62%が、それ以前の百選では選ばれていなかった場所である。

また、1つの百選のみで選出された風景地は<1927>68カ所、<1950>44カ所、<1966>35カ所、<1987>35カ所、<2009>46カ所である。全体の約35~50%がその百選でのみ選出されている。

全ての百選に出現しているところは、十和田湖、日光、箱根、昇仙峡の4カ所である。

4つの百選に出現するもの(1つだけ出現せず)は、15カ所あり、<1927>のみ出現しない、蔵王、長崎、<1950>のみ出現しない、上高地、雲仙、阿蘇、<1966>のみ出現しない、別府、高千穂峡、<1987>のみ出現しない、琵琶湖、宍道湖、秋吉台、錦江湾(桜島も含む)、<2009>のみ出現しない熱海、日本平、高松(屋島も含む)、黒部となっている²⁰⁾

(4) 選定地変遷の状況

<1927>では自然景を主として選定していたが、<2009>では約3割となった。文化的景観の浸透、土木的構造物への関心、視覚だけでなく景の捉え方など、自然景以外への関心の幅が広がったことが相対的に割合を低くしたと考えられる。

図1のように、自然景の中でも、海岸、山岳の割合は概ね一定であるが、河川、瀑布は減少傾向にある。伝統的な海岸に対する風景の考えは継承され、近代の山岳に対する考え方もすでに典型的なものとして捉えられていると考えられるのに対し、川全体で景と捉えることが少なくなってきたこと、滝の景のインパクトの減少が想定される。

各百選とも、半数近くが初出する箇所となっている。これは、

各百選が同一条件で選定されておらず、選定時に、ジャンルの追加や、独自の条件で新機軸をだそうとする傾向が見られるためと考えられる。<1927>においても当初は、「日本新八景」というタイトルで、日本三景や富士山などの近世からの定番名所を対象外としていた。<1950>では選定区分として、自然景のみでなく、都邑と建築物が追加された。<1966>では選定候補地にダムが入り、<1987>では選定候補地を示さないことで独自色を出そうとし、<2009>は「平成」を意識した新しい観点の候補地が挙げられた。

加えて、選定条件に関わらない変化が表出していると考えられる。<1966>では現代の構造物であるダムが選定されるが、それ以外でも「戦後の風景」²¹⁾とされた、スカイラインブームによる五色沼、秘境ブームによる知床半島なども選定された。さらに、<1927>では選定対象から除外されていた、松島、天の橋立、宮島の日本三景、富士山など、旧来の名所の復活が見られる。<1987>では選定候補を示さなかったことでさらに多様性が進み、ダムに加え瀬戸大橋が選定され、はじめてレジャー施設の長崎オランダ村がはいった。また、原爆ドームという「負の遺産」といわれる景も選定された。一方、釧路の選定は、「霧の町」としての知名度に加え、同年に国立公園に指定された釧路湿原の影響が考えられる。また、安曇野、津和野、湯布院などは新興観光地として脚光を浴びた場所である。<2009>は新しい観点の候補地が挙げられそれに呼応した結果となった。文化的景観として棚田の選定、アートイベントの直島、旭山動物園、ディズニーランドといったレジャー施設の選定に加え、特定の時間・行動を伴う甲府盆地の夜景、神戸ルミナリエ、矢切の渡し、四国八十八カ所遍路など参加型の選定には新たな観光(ニューツーリズム)の影響も考えられる。

選定地の景の分類と併せて、自然景から文化・歴史景、さらに現代的な都市・建造物景へ、また伝統的な名所の復活と多様な景への関心が見られる。さらに、視覚的な鑑賞主体の景ばかりではなく、その時その場所に参加することで成り立つ能動的な景の選定も見られる。

4. おわりに

本論では、名数を冠して風景地を選定する現代の百選について、その役割と変遷を明らかにし、また全国の風景地を対象とする百選の選定地の変遷から風景の見方を考察した。

現代の風景に関する百選は、1950年~2010年までの、官庁主催あるいは一般公募のプロセスを経るものは51個あり、その96%が1980年以降に選定されていた。官公庁主体の百選は、自然環境、生活環境、文化的資産などの保全のための啓蒙・周知の手段として利用されており、民間主催の総合的な風景を選定する百選と併せ、その結果によって地域振興をはかり、ガイドとして利用するという、従来からの役割を継続していると考えられる。またその対象は、観光振興目的の総合的な景から、自然景や、人文景へシフトし、特に2000年以降では、歴史遺産を対象とするものが出現するようになった。

百選の選定地の風景の種別では、自然景以外の、文化的景観、現代産業景観などの割合が増加しており、風景の対象の広がりが伺える。各百選で約半数が初出の選定地であり、その時点での新機軸、独自性の表れと考えられる。また、社会状況を反映したと考えられる選定地の選出も見られる。特に直近の百選の結果からは、自然景や文化的歴史的景に加え、レジャー施設や、イベントなど視覚だけではなく能動的な景への指向がみられた。

風景に関する百選では、その時々で新たな景が見出されているが、それは以前から嗜好された景にとってかわるものでなく、見方が重ねられ、風景の見方、接し方が多様化してきたものと考え

られる。

風景の見方に新たな一面が加わる理由として、社会状況、制度、交通機関の発達に加え、現代では様々なメディアの影響が考えられる。どのように現代の風景が生成・発見されるのか、さらに探究すべき課題と考える。

補注及び引用文献

- 1)小島烏水 解説(1948)：志賀重昂「日本風景論」：岩波文庫,6pp
- 2)平井修成(2006)：近工八景論-我が国に於ける風景観形成の一エポック-：常葉学園短期大学紀要 (37), 13-22
- 3)西田正憲(1998)：瀬戸内海における定数名所・観光地等の変遷：ランドスケープ研究 61(5),395-400
- 4)上掲 3)
- 5)大宮直記(1995)：名所図会・百景にみる近代以降の東京における「景」の変遷に関する研究：ランドスケープ研究 58(4), 429-437, 277-307
- 6)白幡洋三郎(1992)：「日本八景の誕生：環境イメージ論」：弘文堂
- 7)新田太郎(2010)：「日本八景」の選定—1920年代の日本におけるメディア・イベントと観光：Booklet 18,69-84
- 8)日外アソシエーツ(2008)：事典 日本の観光資源 ○○選と呼ばれる名所 15000
- 9)財務省印刷局(2001)：日本の 100 選データ・ブッカー こんな 100 選、あんな百選、日本の 100 選大集合
- 10)例えば、ふるさとおにぎり百選 (1986 年食糧庁選定)などは風景ではない、大阪みどりの百選 (1989 年大阪府選定)などは選定範囲が全国ではないため対象外とした。
- 11)表 1 で総合とした、新日本百景 (1958 年週刊読売)、日本の秘境 100 選 (1989 年「旅」)は選定年が近く、遊歩百選 (2002 年読売新聞)、わたしの旅 100 選 (2005 年文化庁)は、特定の箇所ではなくエリアやルートを選定していることから比較対象とはしていかない。
- 12)白幡洋三郎(1996)：旅行のスズメ：中央公論社,66pp
- 13)上掲 12) ,73 pp
- 14)毎日新聞 1950.10.11 朝刊
- 15)特集/新日本旅行地 100 選 座談会：旅 1966.11
- 16)「旅」1966 年 3 月号の九州地方の結果発表の総数が約 20 万票であることから、全国 10 カ所で約 200 万票を超えると想定される。ハガキ一葉に 3 カ所記載のため約 70 万通と想定した。
- 17)読売新聞の百選紹介の記事(1987.10.12)の中で、「確かに『コピーはコピー』。しかし、平日でも 5 千人前後、休日にはその倍、という来場者の数がコピーを超えた素晴らしい話を物語る。」と記述されている
- 18)読売新聞 1987.3.31 朝刊
- 19)300 カ所の候補には、六本木ヒルズ・東京ミッドタウン、築地市場、新宿ゴールデン街などの都市景観、YOSAKOI ソーラン祭などイベント的なものも候補にあげられていた。
- 20) < 2009 >では黒部ダムとして選定され、それまでの黒部峡谷とは種別が異なる」と判断した。
- 21)上掲 15)

百選の情報取得のための参考文献、ホームページは以下のとおり
番号は表一の項番に準拠。ホームページは、2013.8.26～8.31 にアクセス

- 1.毎日新聞 1950.10.11
- 2.週刊読売 1957.12.1
- 3.旅 1966.11
- 4.<http://www.shinrinbunka.com/datatable/1-1-01.html>
- 5.<https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/meisui/>
- 6.近代水道百選委員会(1985)：近代水道百選：水道協会雑誌 54(7) 66-75
- 7.建設省道路局 監修(1988)：日本の道百選：ぎょうせい
- 8.<http://www.shinrinbunka.com/datatable/1-1-03.html>

- 9.<http://www.kankokeizai.com/100sen/what100.html>
- 10.読売新聞 1987.3.31
- 11.<http://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/seisyu.html>
- 12.環境庁自然保護局 監修(1989)：ふるさといきもの里 100 選：ぎょうせい
- 13.旅 1989.9
- 14.日本公園緑地協会(1990)：日本の都市公園 100 選
- 15.読売新聞社 編(1990)：新・日本名木 100 選
- 16.日本さくらの会 編(1992)：日本桜名所百選 見られる限りは見てみたい：講談社
- 17.全国農業協同組合中央会他編(1992)：日本の米づくり 100 選：日本農業新聞
- 18.<http://www.mori-taki-nagisa.jp/>
- 19.http://www.maff.go.jp/j/nousin/noukei/binosato/b_hyakusen
- 20.http://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
- 21.読売新聞 1994.11.30
- 22.<http://www.rinya.maff.go.jp/j/suigen/hyakusen/>
- 23.<http://www.env.go.jp/air/life/oto/index.html>
- 24.<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/mizusato/>
- 25.http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19961101001/t19961101001.html
- 26.<http://www.mori-taki-nagisa.jp/100beach/index.html>
- 27.<http://www.tokokai.org/archive/index02.html>
- 28.公共建築協会 編(1999)：公共建築百選 1947～1997
- 29.<http://www.acres.or.jp/Acres20030602/tanada/index.htm>
- 30.<http://www.mlit.go.jp/crd/city/sewerage/rocal/yomindex.html>
- 31.http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/mori_kyojin/morinokyojin.html
- 32.<http://www.env.go.jp/air/kaori/>
- 33.旅 2002.10
- 34.<http://164.46.82.7/arukitai/>
- 35.<http://yakei.jp/official/info100.html>
- 36.<http://www.expo2005.or.jp/jp/N0/N1/N1.6/N1.6.582/>
- 37.<http://www.bunka.go.jp/publish/tabii100/chiran.html>
- 38.<http://www.wec.or.jp/library/100selection/>
- 39.<https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/suiyoku2006/>
- 40.<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/18/021701.pdf>
- 41.毎日新聞 2006.11.16
- 42.<http://www7a.biglobe.ne.jp/~nihonjokaku/100meijo.html>
- 43.http://www.mlit.go.jp/singikai/infra/city_history/historic_climate/11/images/04-2.pdf
- 44.http://inakajin.or.jp/sosui_old/hyakusen/index.html
- 45.<http://www.web-gis.jp/GeoSite/index.html>
- 46.<http://www.asukabito.or.jp/information/2011/03/post-31.html>
- 47.<https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/newmeisui/>
- 48.<http://www.sato100.com/>
- 49.読売新聞 2009.4.16
- 50.<http://www.mlit.go.jp/crd/chirit/shimanotakara100kei.html>
- 51.<http://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/tameike/>